

没後二十年、その人生と経営の論点とは

「松下幸之助没後二十年記念カンファレンス」開催

平成二十一（二〇〇九）年四月、松下幸之助が平成元（一九八九）年同月に没して丸二十年が経過しました。PHP総合研究所では、松下幸之助に関するさまざまな研究を続け、近年は本紀要『論叢 松下幸之助』を刊行して、成果の一端を発表してまいりました。そしてこのたび松下幸之助没後二十年と『論叢 松下幸之助』創刊五年を機に、これまでの研究成果を振り返り、重要な論点の整理をするとともに新たな研究テーマについての議論を深めようと、松下の命日である四月二十七日、PHP総合研究所京都本部七階ホールに松下幸之助研究の有識者にご参集いただき、記念カンファレンスを開催いたしました。今号ではその内容をご紹介します。

■基調講演・水野博之（大阪電気通信大学副理事長、高知工科大学名誉教授、元松下電器産業副社長）

「変革の時代を生き抜くために―今こそ松下幸之助に学ぶ―」

■第一セッション 《松下幸之助と松下経営の論点》

■第二セッション 《松下幸之助の個人史とその周辺》

■第三セッション 《松下幸之助の哲学・思想性と宗教性》



□参加者

- 旭 鉄郎（「止揚会」代表）
 足代健二郎（あじろ書林店主、郷土史研究家）
 岩井 洋（帝塚山大学教授）
 大平浩二（明治学院大学教授、経営哲学学会前会長）
 大森 弘（近畿大学名誉教授、高野山大学密教文化研究所受託研究員）
 菊澤研宗（慶應義塾大学大学院教授、経営哲学学会会長）
 小松 章（一橋大学大学院教授）
 坂下昭宣（神戸大学大学院教授、日本経営学会理事長）
 住原則也（天理大学教授）
 角田隆太郎（名古屋市立大学大学院教授）
 出口竜也（和歌山大学教授）
 平田光弘（一橋大学・星城大学名誉教授）
 前川洋一郎（関西外国語大学教授、元松下電器産業取締役）
 水野隆徳（水野塾塾長、学校法人奈良学園理事）
 水野博之（大阪電気通信大学副理事長、高知工科大学名誉教授、元松下電器産業副社長）
 三井 泉（日本大学教授）
 宮本又郎（関西学院大学専門職大学院教授）
 山田幸三（上智大学経済学部長）
 以上、50音順

 佐藤悌二郎（PHP総合研究所取締役経営理念研究本部長）
 渡邊祐介（PHP総合研究所松下理念研究部長）
 坂本慎一（PHP総合研究所松下理念研究部主任研究員）
 川上恒雄（PHP総合研究所松下理念研究部主任研究員）

開会挨拶

佐藤悌二郎

皆様おはようございます。本日はお忙しいなか、当カンファレンスにご参加いただきまして、まことにありがとうございます。また、日ごろから私どもPHPの活動にひとかたならぬお力添えを賜り、まことにありがとうございます。この場をお借りしまして、改めて心から御礼を申し上げます。

きょうは四月二十七日ということで、松下幸之助の祥月命日に当たっています。ちょうど二十年前のきょう、松下幸之助は九十四歳五カ月の生涯を閉じました。もう二十年たつのかと、ほんとうに月日の過ぎるのは早いという感慨を覚えずにはおられません。

現在私どもは、松下幸之助の遺志を継いで、政策提言を主に行なっている東京の国家経営研究本部と、松下幸之助の研究を中心に進めている京都の経営理念研究本部という二つの研究本部で、世と人の繁栄、平和、幸福実現に役立つ理念や方策を研究し、それを世に問う、提言していくといった活動を展開しております。

そのうちの、こちら京都の経営理念研究本部の活動内容を少し紹介させていただきますと、まず、松下幸之助は、三千本を超える音声テープ、二万件を超える掲載紙誌を残しています。これらを文字化すべ

きものは文字化し、またデジタル化し、データベース化する作業を進めております。音声テープ三千本のうち、文字化できたのはまだ半分ほどでございまして、今も引き続き地道に進めています。このままいきますと、あと十五年か二十年ぐらいはかかりそうな状況ですが、この取り組みにより、いつでもどこでも誰でも、松下幸之助について調べたいときにはすぐに取り出せるデータベースをつくらうとしているわけです。

そうした資料の整理、デジタル化、データベース化と併せて、これをもとに松下幸之助に関連する書籍、テープ集、今はDVDとかCDですが、そういったものを編集、制作しております。

昨年の暮れから経済状況が非常に悪くなっていますが、「不況と言えば松下幸之助」と世間では考えられているのか、最近、雑誌、新聞あるいはテレビで松下幸之助がよく取り上げられており、松下幸之助ブームの感があります。

そのなかで、私ども研究本部としては、昨年の暮れから今年にかけて、だいたい月に三点から四点ぐらいのペースで、松下幸之助に関する書籍、DVD、CDなどを編集、制作し、発刊して

おります。松下幸之助が、長年の体験と思索のなかで培ってきた知恵、経営の要諦、行き方を紹介することで、経営者やビジネスパーソンの方々のお役に立てればという思いをもって制作、刊行しておるわけです。

それからもう一つ、そうした資料を整理し、それをいろいろな形で編集して世に提供していくといった仕事と併せて、こちらは何と申しましても研究本部でございますので、研究をやはりやっていかなければいけません。

そこでこれまで、ささやかながら松下幸之助について地道に研究を進めて、それを書籍にしたり、あるいは十一年ほど前から雑誌『松下幸之助研究』（一九九八―二〇〇三年、全十八号）を発刊して、そこで発表したりしてまいりました。そしてその後、これを引き継ぐ形で雑誌『PHPビジネスレビュー』（二〇〇三年四月創刊。隔月刊）を、さらには新たに研究紀要『論叢 松下幸之助』（二〇〇四年四月創刊）を発刊いたしました。研究成果の一端を発表しているわけでございます（七七―七八ページに、既刊号に所収の論文一覧を掲載）。

その『論叢 松下幸之助』が、昨年の秋にちょうど十号を迎えました。そして今年、松下幸之助の没後二十年ということ、これを機に、松下幸之助研究について一度振り返って総括し、論点を整理して、さらに今後どのような研究を進めていけばいいかといったことについて検討してみたいと思いついたわけです。

そのようなことから、これまで『松下幸之助研究』や『論叢 松下幸之助』にご執筆を賜った先生方、また松下幸之助についてご理解、

ご造詣の深い先生方に今回お越しいただいた次第です。ぜひ皆様から忌憚のないご意見を頂戴したく存じます。それを私どもPHP総合研究所の研究員は参考にさせていただきます、今後の研究に生かしてまいりたいと思っております。

また、先生方におかれましても、松下幸之助についてこれまで以上にご関心を深めていただき、できましたらご執筆のうえ『論叢 松下幸之助』にご寄稿賜りたく存じます。さらには、皆様の周囲の方々、お弟子さんとか若い方々に、ぜひ松下幸之助研究を慫慂していただければありがたいと存ずる次第です。

この会は、これを第一回として、今後、毎年開催できればと考えております。今回は松下幸之助研究の全体の総括ですが、来年以降はテーマを絞った形で、皆様方のご意見を賜ることができれば幸いに存じます。そのためにも、きょうの議論が活発に行われ、実のある会になることを念じております。

以上、主催者を代表しまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞ本日はよろしくお願いいたします。

『論叢 松下幸之助』第1号 — 第11号所収論文一覧

【論文筆者名後ろの数字について】

第1セッション関連論文……①

第2セッション関連論文……②

第3セッション関連論文……③

■ 第1号 (2004年4月)

《創刊記念対談》

松下幸之助研究の新たな地平 宮本又郎×米倉誠一郎 ①

《論考》

経営理念の伝達・徹底・活用についての考察 小原 明 ①

比較研究：ドラッカーと松下幸之助——その1・経営哲学形成の要件とは 渡邊祐介 ①

創業期における松下電器の多角化戦略——松下電器はいかにして新規市場に参入していったのか 福西 毅 ①

松下幸之助 繁栄、平和、幸福のための宇宙観 大江 弘 ③

松下電器発祥の地・猪飼野 足代健二郎 ②

《資料》

松下幸之助関連資料 (2003.1.1～12.31)

■ 第2号 (2004年10月)

《論考》

日本の「近代」を特徴づける資本主義的精神とは何か——渋沢栄一と松下幸之助を例として 坂本慎一 ③

比較研究：ドラッカーと松下幸之助——その2・企業家、経営者とは何か 渡邊祐介 ①

松下幸之助哲学を基盤とした「教育改革の理念と実践」——「どこでもゼミ」と「経営パラリンピック」 山本憲司 ①

南無根源！——松下幸之助の宗教観 谷口全平 ③

大開町と松下幸之助——人に教えられ、世間に教えられ 井形正寿 ②

《資料》

松下幸之助関連資料 (2004.1.1～6.30)

■ 第3号 (2005年4月)

《論考》

松下幸之助塾長から戴いた「物差し」 高市早苗 ①

「新結合」への永遠の旅——「松下」から「パナソニック」へ——「破壊と創造」中村改革の意味 旭 鉄郎 ①

明治・大正期の新仏教運動と松下幸之助——境野黄洋と高島米峰の思想を中心に 坂本慎一 ③

比較研究：ドラッカーと松下幸之助——その3・イノベーションと企業家精神 渡邊祐介 ①

《資料》

松下幸之助関連資料 (2004.7.1～12.31)

■ 第4号 (2005年10月)

《論考》

松下幸之助と日本ビクター 平田雅彦 ①

“二股ソケット”とは何か 足代健二郎 ①

高島米峰と松下幸之助をめぐるラジオ——昭和八年までを中心に 坂本慎一 ③

比較研究：ドラッカーと松下幸之助——その4・仕事と人生について 渡邊祐介 ①

【特別寄稿】今日の視点から幸之助思想を訴求する歴史館特別展——「創業者メモリアルウィーク特別展」を振り返って 加藤久男 ①

《資料》

松下幸之助関連資料 (2005.1.1～6.30)

■ 第5号 (2006年4月)

《論考》

松下と住友——松下電器の株式会社化をめぐる客観事情(一) 小松 章 ①

C S R時代と松下幸之助 平田光弘 ①

戦前における友松圓諦の真理運動——高島米峰、松下幸之助との連関と共に 坂本慎一 ③

松下幸之助のお茶と真々庵 徳田樹彦 ③

《資料》

松下幸之助関連資料 (2005.7.1～12.31)

■ 第6号 (2006年10月)

《論考》

理念形成と経営公開——松下電器の株式会社化をめぐる客観事情(二) 小松 章 ①

松下幸之助翁、最後の提言——「歴史街道」計画 井戸智樹 ①

比較研究：ドラッカーと松下幸之助——その5・企業とは何か 渡邊祐介 ①

【研究ノート】「人間宣言」と「新しい人間観」に関する試論 坂本慎一 ③

『論叢 松下幸之助』第1号 — 第11号所収論文一覧

〔特別寄稿〕松下電器グローバル展開の略史 圓越 淨 ①

《資料》

松下幸之助関連資料 (2006.1.1～6.30)

第7号 (2007年4月)

《論考》

C S R 推進に番頭経営のすすめ——松下電器の番頭・高橋荒太郎の事例 前川洋一郎 ①

中尾哲二郎の研究——松下電器のモノ(商品)づくりを支え続けた六十年 山添祥則 ①

玉音放送に至るまでの下村宏の事績と思想——松下幸之助との交流と共に 坂本慎一 ③

企業者論・序説——松下幸之助研究(一) 大森 弘 ①

《資料》

松下幸之助関連資料 (2006.7.1～12.31)

第8号 (2007年10月)

《論考》

松下幸之助翁と経営学! 小田 章 ①

比較研究: ドラッカーと松下幸之助——その6・日本の普遍性とは何か 渡邊祐介 ①

事業部制の組織史——企業者論・松下幸之助研究(二) 大森 弘 ①

〔研究ノート〕松下幸之助と高神覺昇の思想——西田幾多郎の哲学と共に 坂本慎一 ③

《資料》

松下幸之助関連資料 (2007.1.1～6.30)

第9号 (2008年4月)

《論考》

松下電器で学んだすばらしいこと 上野治男 ①

松下幸之助の経営哲学と仏教思想(一)——現代の企業経営に求められる倫理についての考察 水野隆徳 ③

「水道哲学」の心理学的考察——企業者論・松下幸之助研究(三) 大森 弘 ①

学校経営と松下幸之助 亀田 徹 ①

松下幸之助と下村宏の道州制論——台湾総督府の州庁制と大戦末期における地方総督府制の重要性 坂本慎一 ①

《資料》

松下幸之助関連資料 (2007.7.1～12.31)

第10号 (2008年10月)

《論考》

松下幸之助・透徹の思想(一)——PHP理念の芽ばえとその時代 青野豊作 ②

松下幸之助の経営哲学と仏教思想(二)——現代の企業経営に求められる倫理についての考察 水野隆徳 ③

「私心なき決断」の心理学的考察——企業者論・松下幸之助研究(四) 大森 弘 ①

社会起業家・五代五兵衛と私立大阪盲啞院——松下幸之助のレファレント・パーソンとして 渡邊祐介 ②

〔研究ノート〕下村宏と松下幸之助の知人に関するそれぞれの回想——幸之助研究における下村の重要性

坂本慎一 ②

《資料》

松下幸之助関連資料 (2008.1.1～6.30)

第11号 (2009年4月)

《論考》

松下幸之助・透徹の思想(二)——PHP理念の誕生とその時代 青野豊作 ②

日本的職業倫理の系譜——鈴木正三と松下幸之助の職業理念と職業人としての使命・職業倫理に関する考察 水野隆徳 ③

「二百五十年計画」論考——企業者論・松下幸之助研究(五) 大森 弘 ①

私立大阪盲啞院が松下幸之助に与えた影響——社会起業家・古河太四郎の教育観を中心に 渡邊祐介 ②

〔研究ノート〕太平洋戦争直前における松下電器の「錬成」運動会とその周辺——下村宏との関係と「錬成」概念の横滑り

坂本慎一 ①

〔研究ノート〕松下幸之助の思想的背景はいかに把握されてきたのか——経営学者による研究を中心に

川上恒雄 ③

《資料》

松下幸之助関連資料 (2008.7.1～12.31)